

運転免許の 学科試験で 外国人に配慮

中国語とポルトガル語導入

神奈川県

公明党神奈川県議団(鈴木秀志団長)はこのほど、横浜市内にある神奈川県警の運転免許本部を訪れ、中

国語とポルトガル語による自動車運転免許学科試験の受験状況などについて、担当職員から説明を受けた。

県内の外国人居住者が年々増加する中で、運転免許試験を受ける外国人も、中国やブラジルなど国籍も56カ国と多岐にわたっているのが現状だ。

こうした実情を踏まえ、党県議団の鈴木議員は2012年2月の本会議で、外国人の運転免許取得に関する利便性の向上と負担を軽減するため、「これまで行

ってきた英語以外の外国語による試験を追加してはどうか」と提案。これを受けて県は今年3月17日から、

中国語とポルトガル語による学科試験を導入した。

同本部によれば、本免許学科試験の受験者は月ごと



中国語とポルトガル語による受験状況を確認する党神奈川県議団

に増えており、

これまで中国語が79人(5月26日現在)、ポルトガル語が24人(同)。このうち、ポルトガル語による受験者の国籍はブラジル(10人)が最も多く、次いでペルー(8人)、ボリビア(6人)の順になっているという。